

鶴岡市総合計画審議会第1回企画専門委員会での主な意見

【市民生活分野】

(婚活)

- ・婚活について、報告体制とか、戻ってきて今度はスタッフとして巻き込んでいけるようなシステムを構築し、そろそろ結果を出していく必要がある。
- ・若者の流出・定住という部分でも、鶴岡の魅力を伝えられる活動を「庄内コン」を利用しながら継続していくのが私たちの力であると思う。
- ・ある年齢になったときに結婚しなければいけないと思うような教育について、検討すべきではないか。

【健康福祉分野】

(少子化)

- ・県では合計特殊出生率の目標を1.8と上げたが、鶴岡市でも明確に目標を決めていけば(少子化に対し)危機感を感じやすいのではないか。

(子育て)

- ・シングル(一人親)で子育てしている方について、特に男性のシングルへの支援が極端に少ないとか、仕事と行事の両立が困難などの声を聞くが、そうした方々も安心して暮らせる子育ての環境整備をお願いしたい。
- ・老人福祉などの補助がいろいろある中、若者支援は非常に少なく、もっと子供を産んでも豊かに育てられる環境整備をお願いしたい。

(要援護者)

- ・市町村に要援護者名簿作成を義務付けられることになるが、行政がすべてやるのは難しく、町内会や民生委員からの協力が不可欠と思われることから、その辺の対応について留意する必要がある。
- ・災害時の高齢者や障害者の避難対策についての支援強化を基本計画の中でも位置付けるべき。

(健康)

- ・健康福祉社会を目指すということなら、死亡率をなんとかもっと下げるといふあらゆる努力をしなければいけないのではないかと思う。(がんの検診率100%を目指す、受動喫煙の防止、など)

(認知症)

- ・認知症でも地域で安心して暮らせる社会づくりが必要で、県立こころの医療センターができるわけなので、そういうものをうまく活用して、認知症の対応をしていくことを鶴岡市としては考えるべき。

(生活保護)

- ・県内の全体の生活保護率は低いが、鶴岡市は高い。保護率を下げようということではないが、生活保護に入っていく前に就労支援、学習支援、家計の支援などを考えていくべき。

【教育文化分野】

(文化会館)

- ・文化会館も学術文化都市と森林文化都市をドッキングすればもっと違った展開が出てくるのではないか。

(アマゾン民族館)

- ・アマゾン資料館について、もう維持できなくなったからやめるという形ではなく、鶴岡市がこれだけ支援してきたという部分を輝かして、次に受け渡していくというような、有終の美の飾らせ方を文化の街として考えられないか。

(共生)

- ・震災以降、大きな価値観の変化があったと思うが、教育関連では共生、繋がり、やさしさといった側面が、子ども達がいろんな体験を通して大きく感じたし、きっとこれからの生きていく上でも大きな精神性の変化をもたらすものだと感じている。

(ユニバーサルデザイン)

- ・学校での特別支援や高齢者、外国人、若者などいろんな方々に対するユニバーサルデザイン化という、やさしく住みやすい地域づくりの視点が大切ではないか。

【農林水産分野】

（森林文化都市）

- ・「森林都市宣言」でいろいろすばらしい芽が出ているが、まだ分かりやすい形で具現化されていないので、そこを少しテコ入れするだけでも分かりやすくなる。

（中山間地域）

- ・農家のお母さんたちが自分で収穫した野菜や山菜等を産直などで販売し、収入を得ることに喜びを見出し、6次産業化などにも目を向けている。認定農業者や大規模農家への支援だけでなく、豪雪地帯（中山間）に住む農家にも光が当たる施策をお願いしたい。

【商工観光分野】

（食文化）

- ・ユネスコの食文化創造都市の登録をぜひ早期に実現して欲しい。

（雇用）

- ・ルネサスの工場閉鎖で1000人いなくなるという話もあるが、人口減少をここで食い止めないと鶴岡の未来はなく、雇用を最優先に確保していただきたい。
- ・大きな雇用確保をするためには未来を見据えていかなければいけない。工業団地を作って企業誘致してきた作業はもう終わり、これからは「スパイバー」を代表とするような若い社長など、これからの産業を背負えるような人材が重要である。
- ・例えば市内の温泉を利用した冬でも農業ができるような仕組みとか、民間で難しいような分野での雇用創出を行政で検討できないか。
- ・ただ物を作ればいいのではなく、売り方や情報発信力でも雇用が生まれると思われるので、東京などいろいろな所の人たちに鶴岡のサポーターになって欲しい。
- ・バブル崩壊以降、建設関係業者が非常に少なくなっており、災害があった際の対応の遅れを実感している。建設・土木関係の復活に力を入れ、公共事業が継続的に行われるなど、建設・土木業で人が働けるような環境を是非作って欲しい。

（企業誘致）

- ・民間と高専の先生や大学の先生が一緒になって産業を起こそうというのはなかなか難しいので、市として「こんな補助金がある」とか、こういう補助金を持ってこういう産業にしたいというようなものを積極的に打ち出し、誘致していただきたい。
- ・中国に出て行った会社について、鶴岡に戻ってこれるような補助金を用意するなど、雇用確保のためのいろんな施策を講じるべき。

(産業振興)

- ・先人、先輩達はその時代に合ったものを作ってきたからこそ残ってきた。未来を拓いていくためには、今の時代に合ったものやっつけていかなければいけない。鶴岡にないものは積極的に他から引っ張ってくるしかない。
- ・市が元気になろうとすると、企業が元気でないと、人も集まらず、経済も回らないので、鶴岡の企業をいかに元気にしていくかを具体的に考えることが重要。
- ・日本でこれから起こっていくイノベーション（内閣府総合科学技術会議「科学技術イノベーション戦略」参照）の中に鶴岡に関係するものも多くあると思われるので、高等教育機関などと連携し、新しい産業、企業の育成を具体的にやってほしい。
- ・「食と農」に「観光」や「健康になる」といったキーワードなどのステップアップを加えながら、鶴岡の誇りに思えるところをブランディングしていくといい。

(観光)

- ・観光大使についても個々の動きはあるようだが、連携の仕方を工夫することで、より有効な活用が図られるのではないかな。

【社会基盤分野】

(基盤整備)

- ・例えば浅く幅の狭い側溝が張り巡らされていて、ちょっとした雨でもすぐ溢れることがあるので、流雪溝にもなるような側溝を作るとか、道路幅が狭いとすれば電柱と電信柱を一本化するなどの工夫も考えられるのではないかな。

【企画分野ほか】

- ・（現実施計画に）鶴岡市の輝く一面が随所にちりばめられているので、市民の力を活かし、小さく出ている芽を上手に拾ってあげばいいのではないかな。
- ・各分野の取組みが、分野横断的連携や人的ネットワーク、外部との連携などで、より大きく市民各位の誇りに繋がるような仕組みづくりが必要ではないかな。
- ・（総合計画審議会・専門委員会での）意見を分野を越えてテーマ、ポイントごとに、できるだけ具体的なことを失わないようにK J法で整理し、より少ない項目にまとめて欲しい。
- ・（計画の具現化について）それを誰が担って、どのように行動に移していくかというときに、やはり市民の力の発揮、市民の力を活かすことでいろんなことができるのではないかな。小さく出ている芽を上手に拾ってあげばいい。
- ・（専門委員会で）具体的提案がされているので、まとめるときに具体的なものがないと全体が見えてこないなので、具体的なところを拾い上げて欲しい。
- ・次世代の育成や伝統文化の継承など、若い人たちの姿が見えるような仕組みとしてのネットワーキングを進めていただきたい。
- ・一番困るのは人がいなくなることだろう。流入人口の受入体制について、朝日町や高畠町では定着率を上げる取組みもあり、流出人口を少なくし、隙間産業にしっかりと得ないかもしれないが、いろいろな文化に係わる部分を広げて行って欲しい。